

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について(事後評価)

課題名「特殊な火災外力・空間における火災性状の究明と対処技術に関する研究」

1. 主な所見

- ・ 所見 : 駐車場火災とトンネル火災を対象を絞り込んだこともあって、特殊空間における安全性評価手法に資する有益な成果が得られている。ただし、当初の目標と比較すれば部分的な成果に止まっている。
- ・ 所見 : 少ない人員と予算で研究が遂行されており、他機関と連携した共同研究は不可欠である。成果の共同発表者をみると民間企業などとの連携が、進んでいるように見受けられる。ただ、他機関との連携に際しての役割分担が明確に整理されていないところがある。
- ・ 所見 : 公団の設計にも取り入れられており、外部機関との連携も良い。今後とも土木との良好な連携を望む。
- ・ 所見 : 特殊火災についての安全性評価法の確率に向けての第1歩が構築された。しかし、その成果はまだ初歩的である。一部には、基準化され実用化された成果が認められるが、社会的ニーズと比較した場合、そのせいかは限定的で、当初の壮大な目的を達成するには、現状の何倍もの体制と予算を確保し、他機関との連携を一層強化して、最重要の重点プロジェクトとして発展させなければならない。
- ・ 所見 : トンネルの耐火設計が試験法に拠っているように、燃焼データと耐火設計とのつながりをつけて体系化することが望ましい。そのためには、空間の開口条件による燃焼性状とそれにもとづく設計手法まで展開することが期待される。
- ・ 所見 : 積み残された課題については、平成17年度以降も継続して実施し、成果を十二分に発揮されることを望む。

2. 主な所見に対する回答

- ・ 所見 に対する回答 :  
中間評価における指摘に基づいて対象を絞り込み、まず自動車火災外力データベースを整備しました。これを外力とする対象空間での特異な火災について性状予測を行い、その対処方法として耐火設計手法に限定して開発を進めました。平成17年度から開始する研究課題では、防火・消火設備設計手法および避難設計手法を加え、総合的な火災安全性評価手法を提案する研究を進めます。
- ・ 所見 に対する回答 :  
新規研究課題は防火研究グループ全員が担当し、基本的な評価手法の骨組みを検討すると共に、建築コンソーシアム、関連官庁および業界等々との共同研究体制において、種々特殊火災に適応した汎用性の高い設計法および評価手法の確立を図ります。

- ・ 所見 に対する回答：  
土木および運輸分野とのより綿密な情報交換を促進します。
  
- ・ 所見 に対する回答：  
所見 に対する回答と同様に新規研究課題では、共同研究などを通じて、外部にも広く協力を求める予定です。
  
- ・ 所見 に対する回答：  
今般の設計外力は RABT 加熱曲線を採用しましたが、新規研究課題では、地下空間の開口条件を整理し、火災外力データベースに基づいた火災性状予測を検討致します。
  
- ・ 所見 に対する回答：  
所見 に対する回答に記したように、新規研究課題の下で十分な成果が得られるよう努めます。